



茅の輪くぐり 夏の健康願う

川越

川越市南通町の川越八幡宮(榊原茂宮司)で江戸初期から伝わるとされる初夏の恒例行事「茅の輪くぐり」が30日あった。写真。祭典の後、宮司の後に続き約70人が家族の健康や、夏を健やかに乗り切れるようにと、茅の輪をくぐり抜けた。

境内の鳥居にくくりつけられた「茅の輪」は直径2・5メートル。この日に間に合うように市内の農家が、約3・3平方メートルの畑

に茅を作付けて収穫、作りあげたという。

家族4人で来ていた同

市新富町1丁目の会社員

新堀安男さん(43)は今年

で4回目といい、「家族み

んなの健康をお願いしました」。鮮やかな緑色の輪をゆっくりとくぐった。7月3日まで。